

月光仮面

▶ 2024. 1. 27 (土)

じゃじゃ～ん！

生徒 A 子：「わっ， わっ， わっ！

びっくりしたなあ， もう！

あんた， だれ？」

月光仮面：「月よりの使者， 月光仮面！」

生徒 A 子：「げっこうかめん？

なんか， いまどきでない変な格好をしてるけど，

あなたのアイデンティティーはなに？」

「月光仮面」をご存知でない方のために…

頭には白いターバンを巻いており， 額には三日月のワッペンが張ってあります。

白ぶちの黒いサングラスをかけております。

白いシャツに白いタイツをはき， 背中には真っ白なマントを背負っています。

白い手袋を履いて， 白いブーツで， 白いオートバイに乗って， 国道を走りながら参上します。

このとき， 次のようなテーマソングがバックグラウンドとして流れます。

「どこのだれだか知らないけれど

だれもがみんな知っている。

月光仮面のおじさんは

正義の味方よ， 良い人よ。

疾風のように現れて， 疾風のようにさっていく。

月光仮面は， だれでしょう。月光仮面はだれでしょう。」

月光仮面：「アイデンティティー？

アイデンティティーって， 何ですか？」

生徒 A 子：「あなたの， あなたたる存在理由のこと。」

月光仮面：「存在理由…？？？

難しい時代になりましたねえ…

そんなもんが必要なんですか？」

生徒 A 子：「ようするにねえ，

あなたは何者なの， ということ！」

月光仮面：「” 月よりの使者， 月光仮面 ” ですが…

かつては， こういうと， 日本全国津々浦々で

拍手喝采で通用したものです…」

生徒 A 子：「ふ～ん，

でもねえ、今どき、

そんなかっこうして町の中をうろうろしていると、逮捕されるよ。」^{「メニューへ戻る」}

月光仮面：「はあ…

すると、わたしはどうすればいいのでしょうか？」

生徒A子：「おしごとにはいかないの？」

月光仮面：「はあ…

おしごとですか…

わたしのおしごとねえ…

わたしのおしごとは何だろう？」

生徒A子：「ま、そんなことどうでもいいけど、
どこからきたの？」

月光仮面：「月ですが…

なんたって、「月よりの使者」と呼ばれておりますが…」

生徒A子：「ふ～ん、

じゃ、かぐや姫ちゃんのこと知ってるの？」

月光仮面：「かぐや姫ちゃん？

さて、だれのことやら。」

生徒A子：「おっさん、だいぶ年いってるみたいだけど…
年はいくつなの？」

月光仮面：「わたしの年ですか？

さて、わたしは何歳なんだろう？」

生徒A子：「あなた、ねえ！

ちと、あやしいねえ…」

月光仮面：「いえ、いえ、決して…

なんたって、「正義の味方で、良い人」ですから…」

生徒A子：「“正義の味方”って、どんなお仕事なの？」

月光仮面：「あなたねえ、

”お仕事”にこだわりますねえ…

ま、いいですけど…

ようするに、「悪い人をやっつける”お仕事です。」

生徒A子：「ああ、警察屋さんですか。

なっとくしました…

でも、日本の警察とコスチュームがかなり違いますねえ。

どこの国の警察なの？」

月光仮面：「だから、さっきから言っているでしょうが…

月よりの使者って…」

生徒A子：「ふ～ん、

月から来たんだ…

じゃ、かぐや姫ちゃんのこと知ってるの？」

…話が”ロンド”します…

だから、この辺でおしまいにならないと、日が暮れてしまいます。